

夜川瀬地区の氾濫

土砂により造られた夜川瀬地区

1718(享保3)年の地震(遠山地震)により、^{もりへいざん}盛平山の北斜面が崩落した。この時にできた山が出山(正しくは出震山)であり、亡くなった人の供養塔(片町家の墓標)もある。遠山川が堰き止められて天然ダムができ、のちに決壊し、遠山川沿いにある和田集落の対岸の夜川瀬に土砂が流出・堆積して、氾濫原をつくった。



information

□ アクセス

天竜峡ICから40km
車→1時間20分

□ 所在地

飯田市南信濃和田



夜川瀬地区

遠山地震とは

714(和銅7)年の大地震により、山体崩壊が起きた。夜川瀬は、この時の山崩れにより流されてきた岩石で造られている。(埋没林のできた由来も同じ地震)。夜川瀬の地名の起源はわからないが、1718(享保3)年の遠山地震以前から使われている古文書がある。

1718年(享保3)7月26日(現在の暦で8月22日)に発生した遠山谷を震源とする直下型地震。中央構造線の活動によるとされる。



(国土地理院の数値地図25000(地図画像)を使用)